

# 1 研究の方向

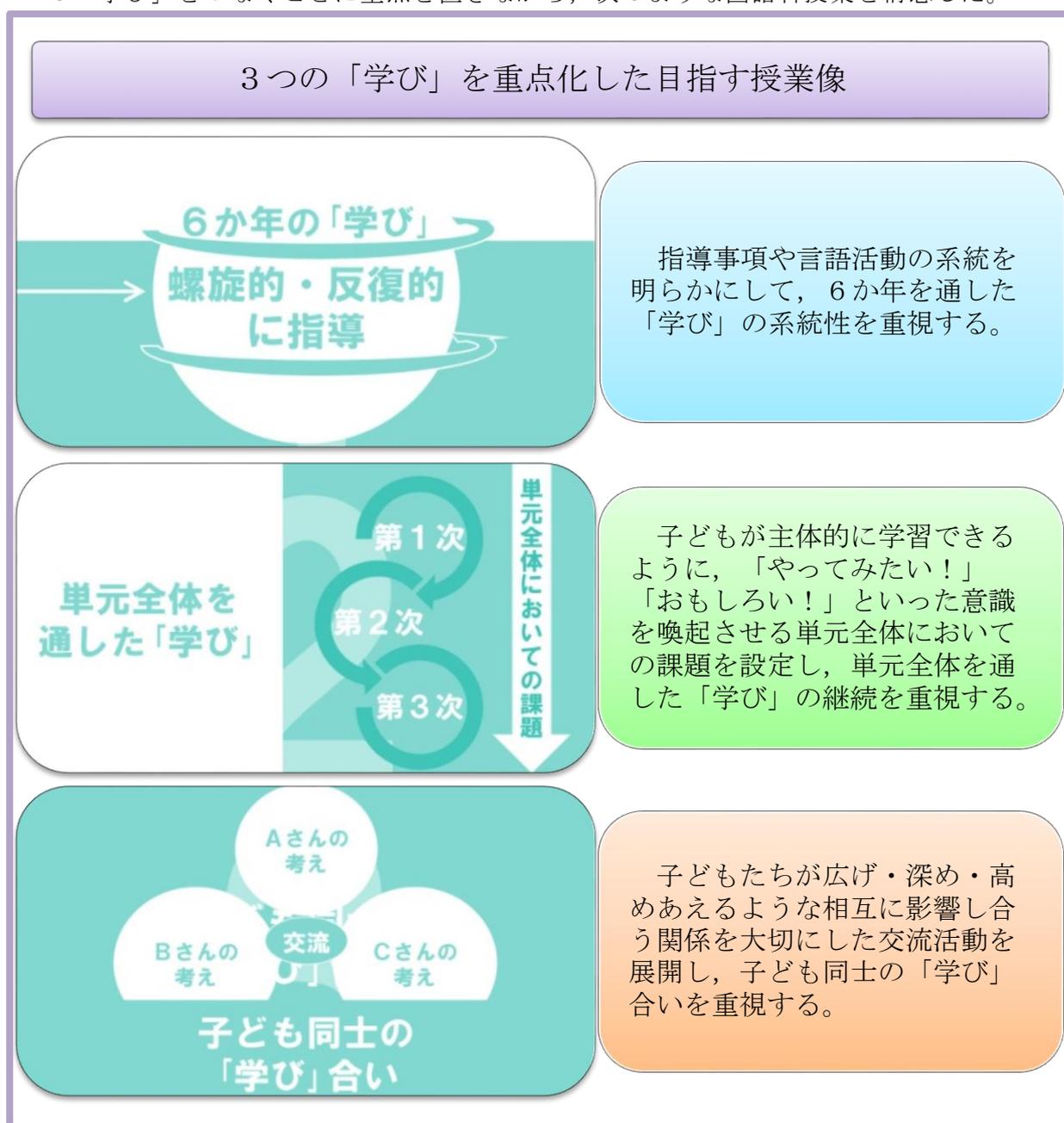
## (1) 目指す子ども像

本校の国語科研究における目指す子ども像は、以下のとおりである。

- 読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書きことができる子ども
- 相手の考えと自分の考えを比べながら聞くことができる子ども
- 自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめることができる子ども
- 多くの語彙を使い、構成を工夫しながら自分の考えを表現することができる子ども
- 言葉のおもしろさや本から学ぶ知恵の奥深さを知り、進んで読書に親しむ子ども

## (2) 目指す授業像

目指す子ども像を具現化するために、平成28年度に研究して取り組んできた3つの「学び」をつなぐことに重点を置きながら、次のような国語科授業を構想した。



※ 1分前には着席をさせ、教科書を音読させたり、前時の振り返りをさせたりする。

つかむ  
みとおす

- ・ 単元を通した言語活動を意識して本時の学習に取り組ませるために、言語活動のモデルや学習計画表を提示する。
- ・ 子どもの課題意識を明確にするために、子どもの言葉をもとにめあてを設定する。

しらべる

- ・ 見通しをもって主体的に学習させるために、学習の進め方を確認させる。
- ・ 教材文の内容を理解させるために、学習範囲を音読させたり、読み取ったことにサイドラインを引かせたりする。

ふかめる

- ・ 自分の考えを整理したり明確にしたりするために、ノートやワークシートに自分の考えを記入させる。
- ・ 自分の考えを深めさせるために、ペアやグループで自分の考えを交流させる。

※ 「どうして？」→「それは～だから」等、対話・交流を充実させる。

ふりかえる  
いかす

- ・ 交流したことのよさを実感させるために、交流を通して気付いた考えの相違点等を振り返らせる。
- ・ 本時の学習と単元を通した言語活動のつながりを意識させるために、子どもの言葉をもとにしてまとめをさせる。

※ まとめを自分の言葉で書く時間を確保する。

以上のような「目指す子ども像」「目指す授業像」を受けて、次のような研究主題を設定した。

#### 【研究主題】

確かな読みをもとに、主体的に表現する力を育てる国語科指導法の研究  
～「読むこと」と「書くこと」を関連付けた言語活動を通して～

## 2 研究の内容

### (1) 研究の仮説

研究主題を具現化していくために、次の二つの仮説を設定した。

#### ア 仮説 1

「読むこと」と「書くこと」を関連付けた課題解決的な指導計画（単元構想）を作成し実践すれば、読み取ったことをもとに自分の考えを形成することができ、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。

#### イ 仮説 2

言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを充実させれば、共に学び合い、自分の考えを深めることができ、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。

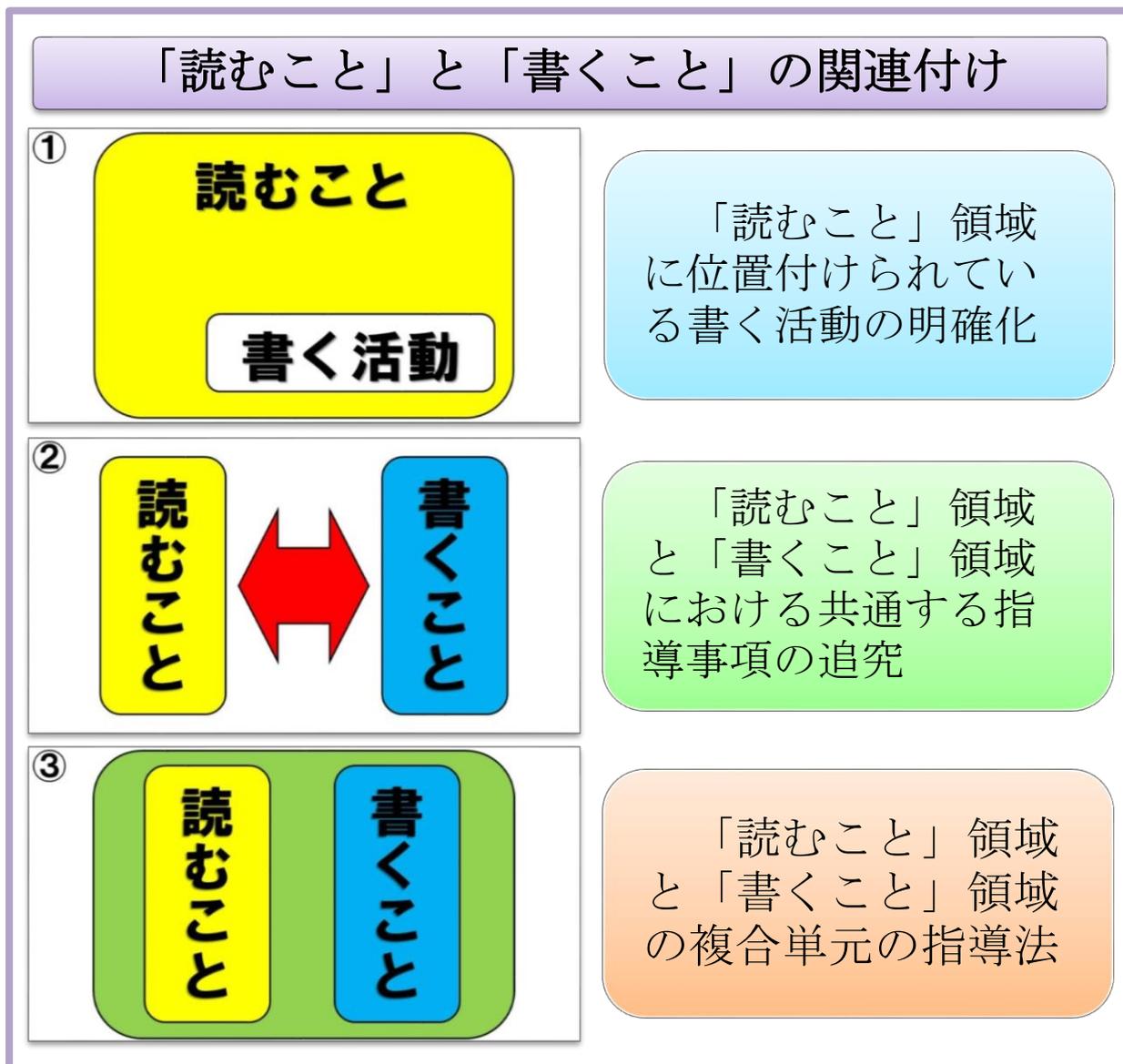
(2) 研究の全体構想

<p><b>【学校教育目標】</b>          自ら学ぶ意欲と実践力をもち、心豊かでたくましく生きる子どもの育成          「明るい子ども」「考える子ども」「がんばる子ども」</p>	
<p><b>【子どもの実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中も教師の話をよく聞いて、指示されたことを確実にすることができる。</li> <li>・ 自分の気持ちを適切に表現して相手に伝えることを苦手としている。</li> <li>・ 「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力にかかわる内容」などの平均通過率が全国平均を下回り、活用する力の育成が大きな課題。</li> </ul>	<p><b>【今日的教育の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「課題を見出し解決する力」、「知識・技能の更新のための生涯にわたる学習」、「他者や社会、自然や環境と共に生きること」など、変化に対応するための能力の育成が必要。</li> <li>・ 基礎的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が必要。</li> </ul>
<p><b>【教師の願い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の思いを自分のことばで表現し伝えられる力を付けさせたい。</li> <li>・ インターネットや図書資料を使って調べ学習をした際に、丸写しをせず見つけた情報を要約し、自分の言葉でまとめられるようになってほしい。</li> </ul>	<p><b>【子どもの願い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かるようになりたい。できるようになりたい。</li> <li>・ 自分の思いをうまく伝える言葉や表現方法について学びたい。</li> <li>・ 日記や作文を上手に書けるようになりたい。</li> </ul>
<p><b>【目指す子ども像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書くことができる子ども</li> <li>○ 相手の考えと自分の考えを比べながら聞くことができる子ども</li> <li>○ 自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめることができる子ども</li> <li>○ 多くの語彙を使い、構成を工夫しながら自分の考えを表現することができる子ども</li> <li>○ 言葉のおもしろさや本から学ぶ知恵の奥深さを知り、進んで読書に親しむ子ども</li> </ul>	
<p><b>【H28 研究主題】</b>          確かな読みをもとに、主体的に表現する力を育てる国語科指導法の研究          ～「学び」をつなぐ言語活動を通して～</p>	
<p><b>【研究仮説1】</b>          指導事項や言語活動の系統性を明らかにし、子どもの実態に応じて位置付けた指導計画を作成し実践すれば、単元を通じた言語活動を充実させることができ、子ども一人一人の読みが確かなものになり、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。</p>	<p><b>【研究仮説2】</b>          言葉への興味・関心を高められるような言語環境を整えれば、確かな語彙力や豊かな言語感覚を育成することができ、子ども一人一人の読みが確かなものになり、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。</p>
<p>視点1 言語活動の充実</p>	<p>視点2 言語環境の整備</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プランニングシートの作成と活用</li> <li>○ 発達の段階に応じた交流活動の設定</li> <li>○ 言語活動のモデル作成と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノート指導の充実</li> <li>○ 教室内外における言語環境の整備</li> <li>○ 語彙表の作成と活用</li> </ul>
<p><b>【H29 研究主題】</b>          確かな読みをもとに、主体的に表現する力を育てる国語科指導法の研究          ～「読むこと」と「書くこと」を関連付けた言語活動を通して～</p>	
<p><b>【研究仮説1】</b>          「読むこと」と「書くこと」を関連付けた課題解決的な指導計画（単元構想）を作成し実践すれば、読み取ったことをもとに自分の考えを形成することができ、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。</p>	<p><b>【研究仮説2】</b>          言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを充実させれば、共に学び合い、自分の考えを深めることができ、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。</p>
<p>視点1 「読むこと」と「書くこと」の関連</p>	<p>視点2 「主体的・対話的で深い学び」</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身に付けたい力の明確化とふさわしい言語活動の設定</li> <li>○ 「読むこと」と「書くこと」に関連する単元の精選</li> <li>○ 学習過程の工夫</li> <li>○ ワークシート・ノートの工夫</li> <li>○ 語彙指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ゆさぶりの発問の工夫</li> <li>○ 振り返りの設定</li> <li>○ 交流活動（対話活動）の工夫</li> <li>○ 交流活動（対話活動）を活性化させる自己表現力の育成</li> </ul>

平成二十八年年度

平成二十九年年度

(3) 「読むこと」と「書くこと」を関連付ける研究のイメージ



3 研究の実際

- (1) 「読むこと」領域に位置付けられている書く活動の明確化
  - ア 第4学年：説明的な文章における実践
  - イ 第6学年：説明的な文章における実践
- (2) 「読むこと」領域と「書くこと」領域における共通する指導事項の追究
  - 第2学年：文学的な文章における実践
- (3) 「読むこと」領域と「書くこと」領域の複合単元の指導法
  - 第5学年：説明的な文章における実践